

安全に配慮して実習が大前提になります。身に付けた技術で、現場の施工に応用できるよう、しっかり考察を深めてください。

教科名	工業（建設）科	科目名	ブラッシュアップ実習 □必修 ■選択	学年	2 年	単位数	3
使用教科書 副教材 等	建築製図・実習（実教出版）			使用教室	建設科実習棟		
学習の 目標	建築の専門分野に関する基礎的な知識と技術を実習によって体験し、建築物の完成予想図を習得し建築設計の各専門分野における技術への興味・関心を高め、実際に活用する能力と態度を育てる。						
評価	評価法	興味関心、学習意欲、授業態度と合わせて、下記項目で評価します。 □定期考査 □小テスト ■ノート・授業プリント ■振り返りシート ■作品 ■パフォーマンス課題（プレゼンテーション・小論文・レポート・ ディベート・自主学习ノート） □その他（ ）					
	評価観点の趣旨	a	知識・技術	作品・プレゼンテーション等で各実習における知識の定着と技能の修得を評価する。			
		b	思考・判断・表現	レポートや課題等で、各実習で得た知識を使って自分なりに考え、表現しているかを評価する。			
		c	主体的に学習に取り組む態度	実習中の態度及びレポートや振り返りシート等で、学びへの主体性や、学習の進捗度を理解して前向きに取り組もうとしているかを評価する。			
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。						
学期	月	学習項目・単元	学習内容・ねらい		評価方法		
					項目	a・b・c	
1	4	○測量・木工の ・機器の使用法 ○パース	電動工具等での木工、平板・レベル・トランシットの使用方法		□定期考査 □小テスト ■ノート a b c ■振り返りシート a ■作品 a b c ■パフォーマンス課題 a b c □その他（ ）		
	7	・立体模型の製作 ・立体模型の スケッチ	立方体模型の製作による各面の見え方 1 消点、2 消点、3 消点の考え方 透視図法の学習 ※第二大津合同庁舎の設計にかかるワーク ショップも定期的に参加します。				
2	9	・透視図 ○作図実習 ・建築物外観	建築物の模写と透明水彩の使用法		□定期考査 □小テスト ■ノート a b c ■振り返りシート a ■作品 a b c ■パフォーマンス課題 a b c ■その他（ ）		
	12	・CAD	鉛筆一色による（強弱の）建築物外観パースの描き方 色鉛筆による建築物外観パースの描き方 3DCADの基礎実習 ※第二大津合同庁舎の設計にかかるワーク ショップも定期的に参加します。				
3	1	○模擬プレゼン テーション・ 着色実習 ・建築物外観 ・建築物内観 ・プレゼンテーション	透視図法を使った建築物外観パースの描き方 透視図法を使った建築物内観パースの描き方 3DCADによるプレゼンテーション		□定期考査 □小テスト ■ノート a b c ■振り返りシート a ■作品 a b c ■パフォーマンス課題 a b c □その他（ ）		
	3		※第二大津合同庁舎の設計にかかるワーク ショップも定期的に参加します。				
担当者からのメッセージ（学習方法など）							
建築デザインに関する基礎的技術について学び、鉛筆（単色）や色鉛筆、透明水彩を使って建築パースを作成し、プレゼンテーションや建築設計時の表現方法を学びます。							

教科名	工業（建設）科	科目名	建設製図 ■必修 □選択		学年	2 年	単位数	2
使用教科書 副教材 等	建築設計製図（実教出版）				使用教室	建設科製図室		
学習の 目標	製図に関する日本工業規格及び専門分野の製図について基礎的な知識と技術を習得させ、図面を作成する能力と態度を育てる。							
評価	評価法	興味関心、学習意欲、授業態度と合わせて、下記項目で評価します。 □定期考査 □小テスト □ノート・授業プリント ■振り返りシート ■作品 ■パフォーマンス課題（プレゼンテーション・小論文・レポート・ ディベート・自主学習ノート） □その他（ ）						
	評価 観点 の 趣 旨	a	知識・技術	建築製図に関する基礎的な知識と技術を身に付け、正確な図面として表現力 する技能が身につけられたか。また、				
		b	思考・判断・ 表現	各種構造物に対応できる応用力と、図面の詳細を理解し、適切に判断し、表 現する能力が身についたか。				
		c	主体的に学習 に取り組む 態度	建築の意義や役割を理解し、学びへの主体性や、学習の進捗度を理解して前 向きに取り組もうとしているかを評価する。				
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点 （1～10の10段階）にまとめます。							
学期	月	学習項目・単元	学習内容・ねらい	評価方法				
				項目 a・b・c				
1	4	○木構造の 設計製図 ・断面詳細図 ・矩計図	木造の構造についてのしくみを理解する。 作図の順序と表現方法を理解する。	□定期考査 □小テスト □ノート □振り返りシート ■作品 a b c ■パフォーマンス課題 a b c □その他 ()				
	7 月							
2	9	○鉄筋コンクリート構造 の設計製図 ・配置図、平面図 ・断面図、立面図	鉄筋コンクリート構造の構造についての しくみを理解する。 作図の順序と表現方法を理解する。	□定期考査 □小テスト □ノート □振り返りシート ■作品 a b c ■パフォーマンス課題 a b c □その他 ()				
	12 月							
3	1	○鉄筋コンクリート構造 の設計製図 ・矩計図	鉄筋コンクリート構造の構造についての しくみを理解する。 作図の順序と表現方法を理解する。	□定期考査 □小テスト □ノート ■振り返りシート c ■作品 a b c ■パフォーマンス課題 a b c □その他 ()				
	3 月							
担当者からのメッセージ（学習方法など）								
製図に関する基本的な技術・知識について学び、表現方法を工夫することによってしくみを理解しまし ょう。								

鉄筋コンクリート造や鋼構造は、規模の大きな建築物に多い構法です。住宅会社以外の建設会社では、これらの構造が主になってきますので、自分の将来を見ずしてしっかり学習しましょう。

教科名	工業（建設）科	科目名	建築計画 ■必修 □選択		学年	2 年	単位数	2
使用教科書 副教材 等		建築計画（実教出版）			使用教室		H R 教室	
学習の 目標		建築物を計画する上での基礎的な知識と技術を習得させて、住宅の平面プランを立てさせる。						
評価	評価法	興味関心、学習意欲、授業態度と合わせて、下記項目で評価します。 ■定期考査 □小テスト ■ノート・授業プリント ■振り返りシート □作品 ■パフォーマンス課題（プレゼンテーション・小論文・レポート・ ディベート・自主学习ノート） □その他（						
	評価 観点 の 趣 旨	a	知識・技術	建築物の計画について、快適な住空間や環境対策について基礎的・基本的な知識を身につけ、成果を的確に表現する力が養えたか。				
		b	思考・判断・表現	建築物を計画する上での諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的な知識を活用して創意工夫する能力が身についたか。				
		c	主体的に学習に取り組む態度	建築物を計画する上で快適な住空間を提供するために自ら思考を深め、知識・技能を活用して表現しようとしているか。				
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。							
学期	月	学習項目・単元	学習内容・ねらい			評価方法		
						項目	a・b・c	
1	4	建築と環境 ○日本、世界の建築の歴史 ○建築と環境	日本、世界の建築の歴史や変遷を知る。 日本において建築物に関する快適な住空間と環境対策についての基本的な知識を得る。			■定期考査	a b c	
	7月					□小テスト		
2	9	住宅の計画 ○住宅計画の進め方 ○全体計画 ○各部の計画	住宅の計画について基礎的・基本的な知識を習得する。 住宅の平面計画について進め方を習得する。			■ノート	a b c	
	12月					■振り返りシート	c	
3	1	住宅の計画 ○フリー設計課題	住宅の平面計画について得た知識を活用し、進める。 平面計画の中に、快適な生活空間を提案する。			□作品		
	3月					■パフォーマンス課題	a b c	
						□その他		
担当者からのメッセージ（学習方法など）								
計画について、快適な空間をどう提案したらよいかの知識・技能を習得し、平面計画の中に盛り込めるよう学習しましょう。								

教科名	工業（建設）科	科目名	建築構造設計（選択B） □必修 ■選択	学年	2 年	単位数	2
使用教科書 副教材 等	建築構造設計（実教出版）			使用教室	HR 教室		
学習の 目標	建築構造設計に関する基礎的な知識と技術を習得させ、構造物を合理的に設計する能力と態度を育てる。						
評価	評価法	興味関心、学習意欲、授業態度と合わせて、下記項目で評価します。 ■定期考査 □小テスト ■ノート・授業プリント ■振り返りシート □作品 ■パフォーマンス課題（プレゼンテーション・小論文・レポート・ ディベート・自主学習ノート） □その他（ ）					
	評価 観点 の 趣 旨	a	知識・技術	構造に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、応力の伝達方法や各種対策技術について理解できたか。			
		b	思考・判断・表現	構造設計に関して自ら思考を深め、基礎的な知識を活用して創意工夫し解法する能力が身についたか。			
		c	主体的に学習に取り組む態度	建築物の力学に関する諸問題について関心を持ち、解法やその改善・向上を目指して意欲的に取り組む態度が身についたか。			
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。						
学期	月	学習項目・単元	学習内容・ねらい	評価方法			
				項目	a・b・c		
1	4	○静定構造物の部材に生じる力	・静定梁の反力、応力 ・静定ラーメンの反力・応力	■定期考査 □小テスト ■ノート ■振り返りシート □作品 ■パフォーマンス課題 □その他 ()	a	b	c
	7月		構造物の応力について解法を理解する。				
2	9	○静定構造物の部材に生じる力	・静定ラーメンの反力・応力 ・静定トラスの反力・応力	■定期考査 □小テスト ■ノート ■振り返りシート □作品 ■パフォーマンス課題 □その他 ()	a	b	c
	12月		構造物の応力について解法を理解する。				
3	1	○部材の性質と応力度	・部材に生ずる応力度 ・断面の性質 ・梁の変形	■定期考査 □小テスト ■ノート ■振り返りシート □作品 ■パフォーマンス課題 □その他 ()	a	b	c
	3月		構造物の断面算定の方法と安全性について理解する。				
担当者からのメッセージ（学習方法など）							
構造物の応力の解法と断面の性質・安全性を学習します。解法順序について繰り返し実践して理解を深めましょう。							

教科名	工業（建設）科	科目名	空気調和設備 □必修 ■選択		学年	2 年	単位数	2
使用教科書 副教材 等	空気調和設備（文部科学省）				使用教室	選択教室 3		
学習の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、空気調和に関する設備の設計・施工に必要な資質・能力を育成する。							
評価	評価法	興味関心、学習意欲、授業態度と合わせて、下記項目で評価します。 ■定期考査 ■小テスト ■ノート ■振り返りシート ■作品 □パフォーマンス課題（プレゼンテーション・小論文・レポート・ ディベート・自主学習ノート） □その他（ ）						
	評価 観点 の 趣 旨	a	知識・技術	空気調和に関わる設備について設計法や施工法と建築物との関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けようとする。				
		b	思考・判断・表現	空気調和に関わる設備に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。				
		c	主体的に学習に取り組む態度	空気調和に関わる設備による生活環境の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う				
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。								
学期	月	学習項目・単元	学習内容・ねらい	評価方法				
				項目	a	b	c	
1	4・5 6 7	空気調和の基礎 冷房・暖房負荷 湿り空気の状態	空気調和の定義・分類・方式、熱源方式について 空気調和の目的、室内環境の規定について 湿り空気（用語と状態式・空気線図の読み方） 【ねらい】 空気調和の基本について知り、さまざまな種類の分類、方式、熱源方式を理解し、建築意匠にマッチングした機器の選定が行えるようになる。また空気調和設計や建築士資格に必要な空気線図が読めるようになる。	■定期考査	a	b	c	
				■小テスト	a	b		
2	9・10 10・11 12	冷房・暖房負荷 冷房・暖房負荷 冷房・暖房負荷	冷房負荷（熱通過率の算出方法について） 冷房負荷（室内取得負荷・外気負荷について） 暖房負荷計算について 【ねらい】 空気調和機器を設計するうえで必要となる各種負荷の種類、計算方法を学び冷暖房の負荷計算表を完成させることができる。	■ノート	a	b	c	
				■振り返りシート	a	b	c	
3	1・2 3	空気調和設備の施工 空気調和設備の保守・管理	機器の据付、ダクト工事について 保守・管理の目的と業務、関連法規と規定、保守管理の実務について 【ねらい】 法規等で定められた施工方法、寸法等を学び、施工管理に必要な知識や技術を身に付けることができる。また、施工後の保守管理について学び、建物管理に役立てる知識を身に付けることができる。	■作品	b	c		
				□パフォーマンス課題	a	b	c	
				□その他	()			
担当者からのメッセージ（学習方法など）								
空気調和は人々の生活を快適にするため必要不可欠なものです。空気を知り、冷暖房の仕組みを学び、空気調和の設計に必要な計算について取り組んでいきましょう。								

教科名	工業（建設）科	科目名	土木施工（選択A） □必修 ■選択		学年	2 年	単位数	2
使用教科書 副教材 等	土木施工（実教出版）				使用教室	HR教室		
学習の 目標	土木工事の方法や材料、安全や品質の管理に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。							
評価	評価法	興味関心、学習意欲、授業態度と合わせて、下記項目で評価します。 ■定期考査 □小テスト ■ノート ■振り返りシート ■作品 □パフォーマンス課題（プレゼンテーション・小論文・レポート・ ディベート・自主学習ノート） □その他（ ）						
	評価 観点 の 趣 旨	a	知識・技術	定期考査や小テストなどで生徒の理解度を評価する				
		b	思考・判断・ 表現	知識を具体化するという視点で、調べ学習や作図課題などで、自分なりに理解したことを形にできているかどうかを評価する				
		c	主体的に学習 に取り組む 態度	授業中の態度やノートの丁寧さ、作図課題などで、授業に対する積極性や主体性を評価する				
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。							
学期	月	学習項目・単元	学習内容・ねらい	評価方法				
				項目	a	b	c	
1	4月	○土木材料	・材料の種類 ・規格	■定期考査 □小テスト	a	b	c	
	5月		・土質材料、木材、鉄鋼	■ノート	a		c	
	6月	○土工	・土工計画 ・土工機械	■振り返りシート ■作品		b	a b c	
	7月			□パフォーマンス課題 □その他 ()				
2	9月	○コンクリート工	・セメント、骨材、混和剤 ・コンクリートの性質	■定期考査 □小テスト	a	b	c	
	10月		・コンクリートの配合設計 ・プレストレストコンクリート	■ノート	a		c	
	11月		・鉄筋コンクリートの施工 ・コンクリート製品	■振り返りシート ■作品		b	a b c	
	12月	○基礎工	・直線基礎 ・杭基礎 ・地盤改良	□パフォーマンス課題 □その他 ()				
3	1月	○工事の仕組みと 管理	・施工計画 ・工程管理	■定期考査 □小テスト	a	b	c	
	2月		・品質管理	■ノート	a		c	
	3月	○法規	・労働基準法 ・建設業法	■振り返りシート ■作品 □パフォーマンス課題 □その他 ()	a	c	a c	
担当者からのメッセージ（学習方法など）								
土木工事は社会基盤の整備を通して、わたしたちの暮らしに安全で良質な生活を提供するものです。長年にわたって使われる土木施設の施工に対し使命感を持って学ぶことが望まれます。								